

「高等教育機関が求める人材像」に関する調査（大学院）  
（平成 27 年 11 月実施）

回答データ分析によるタイプ別レポート

貴研究科名 ○ ○ 大 学 院 □ □ 研 究 科

質問 6 と質問 7 の回答を中心に分析した結果、導き出される 3 つの特徴

- ①実務活動重視度 ②実践活動重視度 ③学術活動重視度

3次元分布図にプロットしてわかる 4 つのタイプ

タイプ 1：実践重視型

フィールドワークや留学などの実践活動を重視しているタイプです。

タイプ 2：実務志向型

海外インターンシップなどの実務活動に注力しているタイプです。

タイプ 3：専門分野志向型

専門分野の活動に注力しているタイプです。

タイプ 4：学際・学術重視型

フィールドワークや留学等の実践活動を重視し、研究等の学術活動にも力を入れているタイプです。  
(類似校タイプ分けの方法については、この用紙裏面を参照)

質問 5、質問 6、質問 7-3 の貴研究科回答状況とタイプ別回答傾向

※集計表中 A 列は貴研究科の回答、全体とタイプごとの選択率

【質問 5 TA 制度を大学院生のための有用な人材育成システムとして位置付けているか】

質問 5-1:TA 制度の有無(単一選択)	A	全体	Type1	Type2	Type3	Type4
1.TA 制度がある	85.6%	76.3%	91.9%	81.8%	93.4%	93.4%
2.TA 制度はないが予定している	2.0%	3.8%	0.0%	3.0%	1.3%	1.3%
3.TA 制度はなく、導入する予定もない	12.4%	20.0%	8.1%	15.2%	5.3%	5.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 5-2-1: TA が携わっている業務の内容(質問 5-1 で「1」回答者、複数選択)

1.授業進行の補助(資料配布、授業環境維持、試験監督等)	87.6%	91.8%	93.8%	78.5%	91.5%
2.授業準備の補助(出席管理、資料印刷等)	73.2%	73.8%	81.4%	63.0%	78.9%
3.担当教授の学生指導補助(ゼミ・卒論指導補助、成績評価補助等)	42.4%	45.9%	51.3%	28.9%	50.7%
4.TA による学生指導(学生への助言、サブゼミの実施等)	47.4%	42.6%	62.8%	28.9%	62.0%
5.大学学事補助(学生支援室等勤務、教材開発補助等)	6.8%	3.3%	13.3%	2.2%	8.5%
6.その他	4.7%	1.6%	2.7%	7.4%	5.6%
無回答	0.5%	0.0%	0.0%	0.7%	1.4%

質問 5-2-2:TA の育成プログラムの有無(質問 5-1 で「1」回答者、単一選択)

1.TA 育成のためのプログラムがある	19.2%	11.5%	38.9%	5.9%	19.7%
2.現在は、TA 育成のためのプログラムはないが、つくる予定はある	8.9%	13.1%	8.8%	6.7%	9.9%
3.TA 育成のためのプログラムはなく、予定もしていない	67.6%	68.9%	49.6%	83.0%	66.2%
無回答	4.2%	6.6%	2.7%	4.4%	4.2%

質問 5-2-3: TA 育成のため実施しているプログラム(質問 5-1、質問 5-2-2 とともに「1」回答者、複数選択)

1.ハンドブックの配布	32.9%	28.6%	29.5%	50.0%	35.7%
2.ガイダンスの実施	75.3%	57.1%	81.8%	62.5%	71.4%
3.担当教授による TA のグループディスカッションの定期的実施	2.7%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%
4.担当教授による個別指導	42.5%	42.9%	40.9%	62.5%	35.7%
5.その他	5.5%	0.0%	4.5%	12.5%	7.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

貴研究科の分析結果 貴研究科は タイプ Δ の「○○型」に分類されます。

貴研究科は、下の 3 つの散布図のそれぞれ■の位置にプロットされています。

①実務活動重視度 ②実践活動重視度  
を軸とした散布図が入ります。

①実務活動重視度 ③学術活動重視度  
を軸とした散布図が入ります。

②実践活動重視度 ③学術活動重視度  
を軸とした散布図が入ります。

○散布図の見方：

この散布図は、回答の分析の結果から得られた特徴をそれぞれの軸におき、各研究科の位置を示したものです。  
また、散布図中の(■)は貴研究科を表し、目安として同じ区分の研究科に色付けして示しています。  
貴研究科の位置からタイプ分けをしており、散布図上の(+)(-)が重視度の強弱を表している訳ではありません。

○散布図の凡例：

⊠ KG1 ⊙ SG1  
◇ KG2 ⊗ SG2  
+ KG3 △ SG3  
○ SG4  
(区分については、この用紙裏面を参照)

【質問 6 教育内容について】

質問 6-1: 教育システムについて(複数選択)	A	全体	Type1	Type2	Type3	Type4
1.教員と大学院生との間で質疑に議論がなされる授業を積極的に実践	90.7%	97.5%	91.0%	87.1%	90.8%	
2.大学院生同士の議論が頻繁に積極的になされるような授業の工夫	59.2%	77.5%	71.3%	41.1%	59.2%	
3.勉強に精を出さねば修了できない、厳しいカリキュラムを実践	25.6%	28.8%	42.6%	11.7%	25.0%	
4.大学院生の思考力、人間性、意欲、視野の広さなどを伸ばすカリキュラムを実践	67.1%	80.0%	75.4%	47.2%	82.9%	
5.グローバルな視点から学ぶ意識を持たせるカリキュラムを実践	47.2%	35.0%	71.3%	27.6%	63.2%	
無回答	2.5%	0.0%	1.6%	4.9%	1.3%	

質問 6-2: 教育内容について(複数選択)

1.教養教育の拡充による幅広い視野や基礎的思考力の養成を実践	48.1%	61.3%	46.7%	39.9%	53.9%
2.論理的思考力を高めるためのトレーニングを実践	68.3%	78.8%	72.1%	54.6%	80.3%
3.外国語専攻以外の大学院生対象に外国語によるコミュニケーション能力養成の支援を実践	26.5%	8.8%	54.1%	5.5%	46.1%
4.正規のカリキュラム以外に、実務で不可欠な技能の養成講座を提供	16.6%	28.8%	17.2%	3.7%	30.3%
無回答	12.0%	2.5%	7.4%	24.5%	2.6%

質問 6-3: 大学院生が実社会を知るための、大学院としての取り組み(複数選択)

1.大学院生の国内でのインターンシップ促進	34.7%	32.5%	60.7%	13.5%	40.8%
2.大学院生のボランティア活動や地域活動への参画促進	23.4%	56.3%	23.0%	4.3%	30.3%
3.企業・官公庁等の幹部・実務者を講師に招き実務を知るチャンスを増大	39.7%	38.8%	65.6%	20.2%	40.8%
4.企業・官公庁等の現場の見学などによる実務者との交流の機会を増大	23.1%	51.3%	29.5%	4.9%	22.4%
無回答	34.2%	15.0%	12.3%	64.4%	25.0%

質問 6-4: 外国語教育への取り組み(複数選択)

1.外国語で論文を読めるようにする	68.9%	61.3%	74.6%	57.7%	92.1%
2.外国語で論文を書けるようにする	37.2%	10.0%	54.9%	14.1%	86.8%
3.外国語プレゼンテーションを行えるようにする	35.6%	5.0%	60.7%	10.4%	81.6%
4.外国語でディスカッションができるようにする	23.1%	1.3%	45.9%	0.0%	59.2%
無回答	26.1%	38.8%	15.6%	39.3%	1.3%

質問 6-5: 留学生対応(複数選択)	A	全体	Type1	Type2	Type3	Type4
1.優秀な留学生の受け入れ拡大に向けた取り組みを実践	35.8%	38.8%	64.8%	12.9%	35.5%	
2.受け入れ留学生に対する日本人大学院生のメンター制度を導入	20.4%	10.0%	47.5%	7.4%	15.8%	
3.受け入れ留学生に対する大学独自の経済的補助制度を導入	45.1%	33.8%	70.5%	35.0%	38.2%	
4.外国語で履修できる科目を提供	26.8%	7.5%	61.5%	11.0%	25.0%	
5.日本語習得のためのカリキュラム、講座などを提供	31.3%	23.8%	66.4%	17.2%	13.2%	
無回答	29.0%	36.3%	3.3%	44.8%	28.9%	

質問 6-6: 大学院生の海外経験のための制度(複数選択)

1.海外大学院との交換留学・派遣留学の制度を導入	44.2%	30.0%	84.4%	20.2%	46.1%
2.海外の企業・官公庁等でのインターンシップを経験させる制度を導入	10.9%	1.3%	35.2%	0.0%	5.3%
3.海外大学院との単位相互認定制度を導入	15.0%	7.5%	44.3%	0.0%	7.9%
無回答	52.4%	70.0%	7.4%	79.8%	47.4%

質問 6-7: 大学院生の海外経験を支援する制度(複数選択)

1.海外大学院との交換留学・派遣留学の経済的支援制度を導入	31.1%	22.5%	62.3%	8.6%	38.2%
2.海外の企業・官公庁等でのインターンシップを経験させるための経済的支援制度を導入	7.9%	0.0%	25.4%	0.6%	3.9%
3.海外の学会などで研究発表をするための経済的支援制度を導入	41.5%	22.5%	68.9%	22.7%	57.9%
4.海外でのフィールドワークへの参加や実施のための経済的支援制度を導入	17.9%	15.0%	38.5%	8.0%	9.2%
5.海外での学会活動・研究活動に必要な語学力習得のための支援制度を導入	10.2%	2.5%	26.2%	2.5%	9.2%
無回答	42.6%	56.3%	8.2%	69.3%	26.3%

質問 6-8: 大学院生の海外経験で必須としているもの(複数選択)

1.海外大学院への交換留学・派遣留学の経験	3.4%	5.0%	0.0%	0.0%	14.5%
2.海外の企業・官公庁等でのインターンシップの経験	0.9%	0.0%	1.6%	0.0%	2.6%
3.海外の学会などで研究発表	5.9%	0.0%	2.5%	0.0%	30.3%
4.海外でのフィールドワークへの参加や実施	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%
無回答	91.2%	95.0%	96.7%	100.0%	59.2%

【質問 7 現在の大学院生について】

質問 7-3: 現在の大学院生に特に欠けていると思われる能力(複数選択)

1.日本人としての基本的なコミュニケーション能力	4.9%	8.8%	4.1%	2.4%	7.8%
2.海外の研究者とのコミュニケーション能力	26.7%	33.8%	21.1%	20.0%	42.9%
3.研究で必要となる学問的蓄積	24.3%	46.3%	15.4%	20.6%	23.4%
4.課題や問題を発見する力	15.3%	32.5%	10.6%	9.1%	18.2%
5.課題や問題を解決するための思考能力	13.5%	30.0%	7.3%	9.7%	14.3%
6.自発的に研究を進めようとする意欲	14.2%	23.8%	10.6%	8.5%	22.1%
7.個々の院生により異なり、一概には指摘できない	68.1%	60.0%	74.8%	67.9%	66.2%
無回答	7.6%	5.0%	8.9%	8.5%	6.5%

## 1. 「タイプ分け」の方法

調査項目の中の人材育成に関する質問に絞り、「ユークリッド距離・ワード法」を用いた階層クラスタリングによってタイプ別に分類しました。

\* 調査に回答いただいた 622 研究科のうち、分析レポート希望をいただいた 445 研究科についての分析です。

### (1) 分析に使用した質問項目

質問 6-1～6-8 : 教育内容に関する質問 (グローバル人材を視野に入れた教育内容)

質問 7-3 : 現在の大学院生に特に欠けていると思われる能力

### (2) 回答内容から抽出した「全体の特徴」と「タイプ分け」

445 研究科の回答内容から 3 つの特徴を抽出し、その特徴を軸とした散布図 (3 次元での解釈) において、距離の近い研究科同士を 4 タイプに分けました。

3 つの特徴	①実務活動重視度、②実践活動重視度、③学術活動重視度
4 つのタイプ	タイプ 1 「実践重視型」、タイプ 2 「実務志向型」、 タイプ 3 「専門分野志向型」、タイプ 4 「学際・学術重視型」

## 2. タイプ別レポートの内容

当該調査の調査票は、弊財団ホームページ上に掲載  
<http://www.shogai-soken.or.jp/research.html>

### (1) 貴研究科の分析結果 (該当タイプ)、タイプ分けに用いた散布図

### (2) 貴研究科の回答内容・タイプ別の回答傾向

分析に使用した質問項目 (質問 6-1～6-8、質問 7-3) と、参考質問項目として、TA 制度に関する質問項目 (質問 5-1～5-2) に関する「貴研究科回答内容」及び、「タイプ別の集計結果」を記載しています。

\* 貴研究科の回答内容に関しては、無効回答があった場合もそのまま (データクリーニング前のデータ) 表示をしています。

#### 【参考 1】データクリーニングについて

無効値 (選択数指定数超え、選択箇所不明)、明らかに他の回答との矛盾のある回答や、記述内容が選択肢に振り分け可能な回答等を、弊財団にて無効扱い・修正している場合があります。

#### 【参考 2】大学ランキングをもとにした大学院区分について

河合塾「2017 年度入試難易予想一覧表」(2016 年 5 月 24 日現在) の大学ランキングをもとに、国公立大学院を【KG1】【KG2】【KG3】の 3 グループに区分。私立大学院を【SG1】【SG2】【SG3】【SG4】の 4 グループに区分しました。

当該タイプ別レポート作成における研究成果及び、弊財団実施調査の報告書をホームページ上に掲載いたしますので、是非、併せてご参考ください。 <http://www.shogai-soken.or.jp/research.html>

- 論文「日本の高等教育機関におけるグローバル人材の特徴」に関するテクニカルレポート <掲載時期未確定>
- 当該調査に関する「報告書 (概報)」(①全体、②設置者別、③専攻群別結果) <8 月中旬以降掲載予定>
- 企業対象に実施した「グローバル化に対処する人材の育成」に関する実態調査「報告書」(当該実態調査と同様の設問項目あり) <9 月中旬以降掲載予定>